

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2019 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No. 9_1/1_2	タイトル シビックプライドの醸成	自治体名 神奈川県横浜市
アイデア名(注2) (公開)	バリアフリーではない施設の突破方法調査		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2019 サイトの中に記載してあるエントリー自治体(連合)が掲げる地域課題を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームが応募されるアイデアにつけるものです。アイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名(公開)	横浜ホイルマップ		
チーム属性(公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input checked="" type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数(公開)	5名		
代表者情報			太田啓介
メンバー情報	氏名(公開)	太田雄介 鴨下琳斗 小野湊斗	

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2019\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2019 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2019@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)

5. この応募内容のうち、「3. 自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。

7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

バリアフリーではない施設をバリアフリーにするには、費用や時間がかかります。

車いすの使用者にとって、ほしいのはバリアの突破方法です。バリアを突破する方法を調べる活動を開始しました。

<解決アイデアの内容>

私は車椅子で生活しています。ほとんどの飲食店等の店舗は、車椅子では入店することができず、大変な思いをしています。食べたい料理や買いたいものがあったも、見ることもできないのは悩ましいです。私だけでなく障害を持ったほかの方も苦労しているのではないかと思います、バリアフリーの状況を調査する活動を開始しました。積極的にバリアフリーに取り組んでいるお店を広く紹介し、**地域活性やシビックプライドの醸成**を目指します。

もともと、**最初のころはバリアフリーのお店を探していました**。ですが、すべての設備がバリアフリーになっているお店は皆無であることがわかりました。また、多少の段差程度や、取れない場所に置いてある商品であれば、介助してくれる人や、お店の人に手伝ってもらえれば解決可能である場合があります。「ウィーログ WheelLog」のような、みんなでつくるバリアフリーマップアプリも登場し、バリアフリーのデータを集めても、（価値はありますが！）あまりインパクトがないと思うようになりました。

私ができることは、私が好きでとにかく食べたい、ラーメンの情報を中心に調査することです。**ラーメン店は狭く、飲食店の中でも入店難易度が高い**です。どんなバリアフリーマップにも、ラーメン店の情報を網羅しているものはありません。むしろ、**バリアフリーではない店のバリアをどのように突破するか**のノウハウ（データ）を蓄積していくことの方が**重要**と思うようになり、途中から活動の仕方を変えて取り組みました。

## (2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

調査していく中でわかったことは、**突破方法**は大きく2つに分けられます。

### <ラーメン店のバリア突破方法類型>

「直進型突破法」 - テーブル席やカウンター席に車いすを直進させて、店の椅子をよけて、食べる方法（テーブルと車いすの高さが合う場合に有効）

「鞍馬型突破法」 - 車いすを店内・店外の別の場所に置いて、自身が移動して、店の椅子に鞍馬のようにして座り、食べる方法（店の椅子が固定されている場合に有効）

各店でラーメンを食べられることを証明するために、**動画、全天球カメラの写真**を公開しています。**車いすの人がラーメンを食べたいと思い、チャレンジしてくれたり、お店の人が心のバリアフリーを解いていくことになればうれしいです。このような活動は本来のバリアフリー・こころのバリアフリーが進んだ**といえると思います。

今後、行列が多い人気店にもチャレンジし、行列の並び方などさらなる突破方法のノウハウ（データ）を取得したり、多人数で活動し、データを公開していき、課題解決のスピードを向上させたいと思います。

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

